

89

プランゲ文庫所蔵新聞にみられる 「看護」に関する広告記事の分析

——九州の場合——

大石 杉乃

東京慈恵会医科大学

【研究の背景と目的】

占領期の日本では、医療や看護の社会的活動もGHQの監督下にあった。GHQの公的な活動はGHQ/SCAP Recordsの分析でわかるが、GHQがその方針や活動を一般の人々にどのように周知させたかを知るためには、新聞広告の分析が役立つ。

本研究では、「占領期メディアデータベース化プロジェクト委員会(代表:山本武利)」(以下、占領期データベース)のデータベースを用いて、メリーランド大学プランゲ文庫に所蔵されている新聞の中から記事広告を設定した。記事広告は、1946年3月5日から1949年9月17日までのものであり、地域は占領期データベースで地方新聞の検索が可能である九州地方とした。

研究目的は、プランゲ文庫所蔵の新聞(当時の新聞協会加盟)から、①九州における「看護」に関する記事広告数の違い、②それらの広告数を分析し、看護の社会的活動を探ることである。なお、史料の収集と分析には、プランゲ文庫から許可を得ている。

【結果と考察】

1. 看護の記事広告数の違い

新聞協会加盟の地方紙は、九州で発行された10社11紙の新聞が所蔵されていた。いずれもタブロイド版で両面印刷の1枚であった。占領期データベースでkey wordの「広告」に「看護」を挿入し記事を検索したところ、以下の122件が抽出された。「西日本新聞」(福岡県)は、1946年3月から1949年9月までの60件中、22件(36.7%)は「看護婦生徒募集」が最も多く、2件(3.3%)は看護に関する図書、1件(1.7%)は同窓会の案内であった。「急募・看護婦見習・女中」「看護婦・炊飯婦採用」という記事広告も認められた。「南日本新聞」(鹿児島県)は、1946年8月から1949年9月までの46件中、13件(28.3%)は「看護婦生徒募集」や「甲種看護生徒募集」が最も多く、3件(6.5%)は看護に関する図書、1件(2.2%)は近畿地区での看護婦募集という広告もあった。「熊本日日新聞」(熊本県)は、1946年9月から1949年9月までの16件中、4件(25%)は「看護婦生徒募集」が最も多く、残りの広告は「看護婦募集」であった。

これら以外の新聞には広告は掲載されておらず、その理由は明確でない。

2. 同一新聞における看護の記事広告数の比較

「西日本新聞」において多数(1ヶ月あたり)の看護記事広告数が認められたのは1946年3月が6件、1948年11月が6件、1949年2月が7件、1949年3月が8件であった。「南日本新聞」は、1947年3月が9件、1947年1月と1949年2月が5件であった。「熊本日日新聞」は1948年10月が3件であった。これらの中で、広告記事数と1ヶ月あたりの件数が重なったのは、「西日本新聞」の1946年3月と「熊本日日新聞」の1947年3月のみであった。いずれも看護婦生徒募集が多くを占めていた。「熊本日日新聞」では国立鹿児島療養所が12件(2つのカテゴリーを含み)、「西日本新聞」では九州帝国大学医学部附属医院厚生女学部(年代により表現は変わる)、小倉記念病院がそれぞれ5件あった。なぜ、この時期に広告記事が発信されかたについては検討が必要と思われた。

【まとめ】

プランゲ文庫における新聞の広告記事を分析した。九州の新聞では「西日本新聞」「南日本新聞」「熊本日日新聞」が所蔵され、看護に関する広告記事は平均的に発信されていた。広告記事の分析が、日本の看護の実情をどのように表しているかは今後の検討が必要である。